

各プランの概要 ※数字は全て1基あたり

区分	プランA 「まや」型ベース (マルチミッション)	プランB 民間船舶ベース (BMDメイン)	プランC セミサブリグベース (マルチミッション)	プランD セミサブリグベース (BMDメイン)	(参考) イージス・アショア
導入コスト	2,400~2,500億円以上 ▶ 現時点で米国政府及び日米の民間事業者から入手可能な情報をもとに試算した規模感。実射試験に要する経費や人材育成関連経費は含んでいない。今後、プラットフォーム形態の検討を進めた上で、米国政府や日米の民間事業者を交えて精緻化していく必要があり変更があり得るため、確定した事業経費ではない。	1,900~2,000億円以上	2,300~2,800億円以上	2,100~2,600億円以上	約2,000億円 ※ 1 (イージス・アショアの本体取得経費：約1,260億円)
維持整備費※ 2	<ul style="list-style-type: none"> ● イージス・アショア構成部品 ● プラットフォーム ● 下記主要搭載装備品 ● 燃料等 	<ul style="list-style-type: none"> ● イージス・アショア構成部品 ● プラットフォーム ● 下記主要搭載装備品 ● 燃料等 	<ul style="list-style-type: none"> ● イージス・アショア構成部品 ● プラットフォーム ● 下記主要搭載装備品 ● 燃料等 ● 大型支援船 	<ul style="list-style-type: none"> ● イージス・アショア構成部品 ● プラットフォーム ● 下記主要搭載装備品 ● 燃料等 ● 大型支援船 	<ul style="list-style-type: none"> ● イージス・アショア構成部品 ※ 3 (約1,000億円) ● その他、電力・燃料費等
建造工期	約5年 ▶ 建造前に基本計画策定・設計等の期間が必要。特にプランB～Dはイージス・アショアの構成部品等の搭載のために最適化された設計になっているわけではないため、更なる精緻な検討が必要。 ▶ また、今後、個別装備品の調達スケジュールの整理や装備品のインテグレーション、各種試験等に関して、米国政府や日米の民間事業者を交えてスケジュールを精緻化する必要があり、必ずしも運用開始時期とは一致しない。	約5年	約5年	約5年	約5年 ※ 4
所要人員	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 現時点では、一概には比較できる所要人員数を算出できない。 ▶ 洋上プラットフォームの任務や追加兵装を確定させた上で、ダメージコントロールに関する考え方や、省人化の検討、クルー制の導入の有無・程度等も含めて、所要人員を検討していく。 				約250名 (警備要員等を含む)
主要搭載装備品	<ul style="list-style-type: none"> ● 高性能20ミリ機関砲 ● 12.7ミリ遠隔管制機関銃 ● 短魚雷 ● VLS(96セル) ● 対空ミサイル ● 対艦ミサイル ● 対潜ミサイル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高性能20ミリ機関砲 ● 12.7ミリ遠隔管制機関銃 ● 短魚雷 ● VLS(24セル) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高性能20ミリ機関砲 ● 12.7ミリ遠隔管制機関銃 ● 短魚雷 ● VLS(96セル) ● 対空ミサイル ● 対艦ミサイル ● 対潜ミサイル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高性能20ミリ機関砲 ● 12.7ミリ遠隔管制機関銃 ● 短魚雷 ● VLS(24セル) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 短SAM ● その他警備関連装備品 ● VLS(24セル)
構造上の防御性能 (ダメコン、ステルス性等)	○	△	△	△	—
速力	30ノット以上	20ノット以上	数ノット	数ノット	—
稼働率	△	△	○	○	○

※ 1 イージス・アショアの本体 (SPY-7、イージス・ウェポン・システム、VLS) 取得経費約1,260億円に、洋上プラットフォームの船体建造費用等に相当し得る費用として、特定の配備地を前提としない形で試算した施設整備費や警備関連装備品 (短SAM等)、通信機材等の取得に要する経費などを合算。

※ 2 搭載装備品等が確定していないこともあり、代替案に関して精緻な金額を試算することは困難であるため、維持整備費を構成する主要な要素を列挙。

※ 3 イージス・アショアの維持整備費は、平成30年7月のレーダー選定時に米国政府等から提案された30年間の維持・運用経費であり、現時点で判明しているものに限る。

※ 4 イージス・アショアについては、レーダーを含むシステム本体を約5年間で製造し、その後、各種性能確認や配備地での設置等を経て運用開始に至る予定であったため、全体スケジュールとしては、5年以上を要するものと考えていた。

(出所) 防衛省「イージス・アショアの代替案について (中間報告書等の概要)」2020年11月25日より抜粋

外交防衛委員会 2020年12月1日 日本共産党 井上哲士 提出資料